

## 【表紙・裏表紙解説】 あいち国文第13号

表紙、裏表紙写真は『おくやま椿』（愛知県立大学附属図書館蔵）。全一卷。半紙本。一〇丁。刊本。四つ目綴。

明和九年（一七七二）。巻阿。

『愛知女子短期大学古俳書目録』では、佐久間柳居に学んだ江戸時代中期の俳人、加藤巻阿一派の歳旦帳と紹介される。前半は今回の表紙、裏表紙のように句と絵が組み合わされているが、後半は句のみとなっている。

加藤巻阿（？―一七八七）は、名は既明、字は士文。

初号、貫阿、別号は方円居、如雪道人。江戸・甲斐・駿河に多くの門人をもった。また、巻阿が師事した佐久間柳居（一六八六―一七四八）は、江戸時代中期の俳人で、名は長利、別称は三之丞、三郎左衛門。別号に松籟庵、長水、眠柳などがある。中川宗瑞らとともに、享保十六（一七三二）年に当時の江戸座の大衆的な点取俳諧を批判し、勝負に拘わらず俳諧に遊び、その後の俳諧の蕉風復古の先駆的役割となったとされる『五色墨』を刊行し

た。

『愛知女子短期大学古俳書目録』の解説では、題名は柳居の「くだかけに奥山椿流れけり」によって名付けられたとされているが、一六丁オにある実際の句は「くだけすに奥山椿流れけり 柳居士」となっている（傍線は私に付した）。また、巻末に「若草や思はぬ道の遠歩行松泉」とある後に「松泉水刀」という名があるが、この人物については不詳。

参考文献…『愛知女子短期大学古俳書目録』、『国史大辞典』（吉川弘文館）、『日本国語大辞典』第二版（小学館）、『日本人名大辞典』（講談社）、『俳文学大辞典』（角川書店）、愛知県立大学図書館 貴重書コレクション（<http://opac.laichi-pu.ac.jp/kicho/kohaisyo/index.html>）。

（文責…熊澤美弓）